

令和元年6月6日現在

機関番号：13903

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03342

研究課題名(和文) 西洋中世の「正義論」がもつ哲学的意味と現代的意義に関する基礎研究

研究課題名(英文) The Basic Research on the Meaning of the Medieval Theory of Justice in the History of Western Philosophy and Its Contemporary Significance

研究代表者

藤本 温 (Tsumoru, Fujimoto)

名古屋工業大学・工学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：80332097

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、西洋中世を中心として哲学的観点から「正義論」を研究して、西洋中世における「正義論」が決して一枚岩ではなく多様な展開があったことを明らかにしようとした。本研究メンバーの専門領域に即して、アウグスティヌス、アンセルムス、アキナス、ゴドフロワのフォンテーヌ、スコトゥス、デインステールのヨハネス、ビュリダンらの正義論の研究を行い、さらには近現代の哲学者の正義論も適宜、検討の対象とした。本研究メンバーによる個別の論考や学会・研究会発表の他に、2019年2月に『西洋中世の「正義論」がもつ哲学的意味と現代的意義に関する基礎研究』と題する冊子を作成して研究成果をまとめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

正義論に関する研究は多数あるが、西洋中世の正義論に特化した総合的研究は日本国内では行われたことはなく、また国外でも西洋中世における多様な正義論を一冊の書にまとめるような研究は従来なされていない。それ故、2019年2月に作成した本研究に基づく報告書『西洋中世の「正義論」がもつ哲学的意味と現代的意義に関する基礎研究』の学術研究としての意義は大きいと考えられる。西洋中世における正義論が決して一枚岩ではなく、西洋中世の時期にすでに多様な正義論があったことを明らかにすることにより、現代社会における「正義」理解の多様性を考察する際に、哲学史視野をもって取り組むことの重要性を本研究は提示した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research project is to prove, by studying “theories of justice” from the viewpoint of the History of Medieval Western Philosophy, that theories of justice in the West during this particular period were not necessarily in monolithic solidarity but instead in states of independent development. The works on justice by Augustine, Anselm, Thomas Aquinas, Godfrey of Fontaines, Duns Scotus, Johannes de Dinsdale, and Jean Buridan have been studied according to the expertise of each project member. The works of modern and contemporary philosophers on the same topic have fittingly been explored as relevant for our study as well. Aside from the published discussions of each project member or presentations at academic society meetings or workshops, the booklet titled “The Basic Research on the Meaning of the Medieval Theory of Justice in the History of Western Philosophy and Its Contemporary Significance” was compiled in February 2019 to present the project achievements.

研究分野：西洋哲学史

キーワード：正義論 中世哲学 徳 共同体

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初、ロールズ、ドゥオーキン、サンデル、ヌスバム、センら正義論の研究と紹介が活発に行われており、また日本の一般社会においても「正義」という語が以前にも増して流布し始めていた。そうした中で本研究参加者は、哲学的視点をもった正義論研究が今後よりいっそう必要になるのではないかと考えた。西洋中世哲学史の観点から研究を進めることに大きな意義があるのではないかと考えた。西洋中世哲学史上の正義論に関して個別の研究はあるものの、総合的な研究は国内外で見出すことができなかったからである。従来、西洋中世哲学内部において多種多様な「正義論」があったことは見過ごされる傾向があったのではないという見通しのもと、本研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究では、「正義」の議論を哲学的観点から明らかにすることを主眼とする。しかし、従来の多くの研究で採られてきた視点とは異なり、西洋中世哲学を視点の中心に据えて、その前後の時代との連続面/不連続面を見渡す方法を採用する。この方法を通じて、これまで一般的にはキリスト教の神の下での正義として画一的に取り押さえられがちであった西洋中世哲学の正義論について、その多様で豊富な哲学的展開と、一枚岩では収まらない複雑に入り組んだ影響関係を明らかにする。そして現代のさまざまな正義論に対する西洋中世哲学の正義論の連続面と不連続面を考察して、正義に関わる現代の問題に対して哲学的観点からアプローチすることをめざす。

3. 研究の方法

「正義」の議論を哲学的観点から明らかにすることを主眼とする本研究では、西洋中世哲学の視座を中心に据えて、その時代に正義がどのようなものとして理解され、またそれが古代哲学からどのような影響関係の下で構築され、そしてどのようにして近世哲学へと受け継がれていったのかを研究するにあたり、次の三つの視点から順次、研究を進めることにした。すなわち、本研究参加者のそれぞれの専門分野に即して、(a)「正義論の基本的な骨格」、(b)「正義と正しさとの関係」、(c)「正義と法/共同体」との関係について研究を進めた。

本研究メンバーを中心とする正義論研究会と、外部講師による提題を含む正義論ワークショップ(公開)を開催し、西洋中世の正義論を中心として、古代や近現代のさまざまな正義論について検討を行うことを計画した。

4. 研究成果

(1)西洋中世の正義論を研究する際、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』第5巻の「正義論」について中世の哲学者・神学者は、注解や問題集という形で自らの理解や解釈を提示している。本研究では、トマスやスコトゥスやビュリダン、その他、国内外で未紹介の西洋中世の哲学者による、『ニコマコス倫理学』第5巻の詳細な分析の確認と紹介を行った。それにより西洋中世の哲学者たちによって展開された同書第5巻の解釈がその詳細において大小様々に異なるものであり、また現代のアリストテレス解釈とも差異があることが明らかにされた。

(2)正義論の基本的骨格：それぞれの担当者が取り扱う哲学者について、「正義」がどのような仕組みのもとで理解され、どのような位置づけが与えられているのかを検討した。アリストテレスの正義論における配分的正義、矯正的正義、徳の全体としての正義といったさまざまな「正義」が中世の神学者たちによって一律同様に理解されていたわけではないことが明らかにされた。また、中世哲学においてはキリスト教的な原罪や「義」の問題との関わりから「正義」を考察することが重要になる。すなわち、単に徳としての正義ではなく、理性的な被造物と神との関係を根本的に規定するような存在論的な、そして救済論的なものとして規定されることがある。西洋中世の哲学者たちが、アリストテレス的な正義論とキリスト教的な「義」の問題をどのように調和させて自らの理論に取り込んでいるのかについても確認された。

(3)正義と正しさの関係：正義という概念の特性は、とりわけ古代中世から近世初頭にかけては、思慮という個人がもつ徳が取り押さえる「正しい理」に関わる側面と、本来的には対他関係において成立する共同体に関わる側面を持つ。それぞれの担当において「正しい理」に関わる「正しさ」について、また「意志の正しさ」についても考察した。西洋中世の哲学者・神学者内部で「正義 正しさ」関係の理解に微妙な差異が存することが明らかにされ、さらに西洋中世の法学者による「正義 正しさ(正しいこと)」の理解をも参照してこの問題を引き続き検討する必要性が確認された。

(4)正義と法/共同体との関係：他者/共同体に関わる側面から、それぞれの担当において、正義と法/共同体はどのように関係づけられ、そしてどのように位置づけられるべきなのかを検討した。幾人かの分担者は、法的正義、自然法、神法、人定法との関わりからこの問題にアプローチを行い、一例を挙げるなら、人間関係やコミュニケーションを重視する視点の存在に到達し、また他の分担者は正義と友愛との関わりからこの問題に取り組み、友愛が正義に関わるのは人間が人間に対していかに自由に関わることができるのかを追求することにおいてであるという

解釈を提示するなど、それぞれの担当者が扱う哲学者による正義、法、友愛の相互連関の独自の説明ないし理解の仕方が明らかにされた。

(5) 2019年2月に『西洋中世の「正義論」がもつ哲学的意味と現代的意義に関する基礎研究』と題する冊子(報告書、125頁)を作成した。この冊子には以下の論考が収められている。

- ・吉沢一也：ソクラテスとプラトンによる「通俗的」正義への関与について
- ・西村洋平：古代末期に他者への正義と友愛はどのように語られたか エピクテトス『提要』と新プラトン主義の解釈
- ・矢内義顕：アンセルムスの(正)義論
- ・山口雅広：トマス・アクィナスによる広義の正義論
- ・藤本温：西洋中世の正義論 Ius と Lex から考える
- ・松根伸治：フォンテーヌのゴドフロワの正義論
- ・小川量子：スコトゥスにおける正義と友愛
- ・Taki Suto: Johannes de Dinsdale, *Quaestiones super Librum Quintum Ethicorum*, An Introduction
- ・辻内宣博：法的正義から見る正義論の基底 トマス・アクィナスとジャン・ビュリダン
- ・大野岳史：初期近世道德哲学とスピノザの正義概念
- ・伊藤邦武：宇宙市民の可能性について

本冊子は、正義論研究会と正義論ワークショップにおいて西洋中世の「正義」論について議論を行った成果の一部であり、これらの論考を発展させて一冊の書にまとめることを計画中である。

(6)3年間の研究期間中に、正義論に関する研究会とワークショップを計6回開催した。ワークショップで提題を行ってくださった外部講師は、第1回正義論ワークショップ(2017年3月9日)では、川本愛氏(京都大学)と神島裕子氏(立命館大学)、第2回正義論ワークショップ(2018年3月6日)では、西村洋平氏(龍谷大学)と御子柴善之氏(早稲田大学)、第3回ワークショップ(2018年12月19日)では、将基面貴巳氏(ニュージーランド・オタゴ大学)である。本研究のメンバー以外の5名の研究者の協力を得て、「正義」理解に関わる多様な展開について議論を行い、理解を深めることができた(所属は開催当時のもの)。

(7)今後の展望

今後は各メンバーが本研究で得られた知見をもとに、「正義」の問題を「愛」や「法」、そして今日の社会問題との関わり、キリスト教の義の問題との関わり、西洋中世の正義論に関わる新たなテキストの開拓など、各自がさらなる展開を探究していく。

研究代表者(藤本)の展望は以下の通りである。「正義」についてはさまざまな理論や定義があり、その「分類法」も多様である。すなわち、「功利主義的な正義論」と「義務論的な正義論」という分類や、「正しい秩序としての正義」と「内在的権利としての正義」という分け方、他にも「目的論的な正義」と「相互性による正義」という区別もある。実に多くの「正義」概念がある中で、今回の研究では主として西洋哲学史において現れる「正義」概念を扱った。しかし歴史を振り返るならば、もうひとつ忘れられてはならない重要な正義概念がある。それは「法学者による正義概念」である。折しも西洋中世は大学の成立の時期であり、もとは自由七科の修辞学であった法学が、12世紀以降目覚まし展開を遂げたことはよく知られている。西洋中世においては法学部に属する者にとっても、神学部にも属する者にとっても「正義」概念は誠に重要なものであった。そこで、「法学者の正義論」と「神学者や哲学者の正義論」という区分を立て、西洋中世の法学者と神学者(哲学者)の相互交流(あるいは非交流)についての実態調査から、「正義」理解の異同を検討する必要があることを、本研究を進めるなかで確認できた。この研究は、「西洋中世の正義論の研究」(基盤研究C、代表：藤本温)に引き継がれる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計21件)

矢内義顕、アンセルムスにおける「原罪」と「父祖たちの罪」、宗教研究、査読無、第92号別冊、2019、pp.226-227

伊藤邦武、ポアンカレの時間論、龍谷哲学論集、査読無、第33号、2019、pp.1-18

松根伸治、ガンのヘンリクスによる意志の弱さの叙述: Quodlibet I, q.17、中世哲学研究、査読有、第37号、2018、pp.18-136

松根伸治、倫理徳の座としての意志: ガンのヘンリクス『任意討論集』第4巻22問、査読無、南山神学、査読無、第42号、2018、pp.99-121

伊藤邦武、エミール・ブートルーの思想、龍谷大学論集、査読無、第492号、2018、pp.8-34

藤本温、(書評) Thomas M. Osborne Jr., *Human Action in Thomas Aquinas*, John Duns Scotus & William of Ockham, Catholic University of America Press, 2014、中世思想研究、査読無、第60号、2018、pp.139-144

Taki Suto, Johannes de Dinsdale, *Quaestiones super Librum Quintum Ethicorum*, An

Edition with an introduction、中世哲学研究、査読有、第 36 号、2017、pp.42-102、
http://medieval-philosophy.kyoto.jp/veritas/vol36/42-102_suto.pdf
山口雅広、上位理性と下位理性 トマス・アキナス『神学大全』の知性論の場合、龍谷
大学論集、査読無、第 491 号、2018、pp.44-73
矢内義顕、アベラルドゥスの救済論、宗教研究、査読無、第 91 号別冊、2018、pp.235-236
松根伸治、トマス・アキナス『悪について』第 10 問・嫉妬(翻訳)、アカデミア 人文・
自然科学編、査読無、第 14 号、2017、pp.221-240
<http://id.nii.ac.jp/1179/00001191/>
小川量子、正義と自由：スコトゥスにおける神の絶対的権能、慶應義塾大学言語文化研究所
紀要、査読無、第 48 号、2017、pp.61-77
山口雅広、中世の二人の思想家とリパブリカニズム、倫理学研究(関西倫理学会)、査読無、
第 47 号、2017、pp.26-36
https://doi.org/10.24593/rinrigakukenkyu.47.0_26
山口雅広、(書評)『中世における制度と学知』、宗教研究、査読無、第 91(1)号、2017、pp.159-163
https://doi.org/10.20716/rsjars.91.1_159
HIRANO Wakako(研究協力者) Three Types of Freedom: Augustine's Definition of
Freedom in Controversy with Julian of Eclanum, *Patristica*, supplementary、査読有、
vol.5、2017、pp.21-36
伊藤邦武、ラッセルとポアンカレ、現代思想、査読無、第 45(21)号、2017、pp.210-213
松根伸治、ガンのヘンリクスと *propositio magistralis*：意志の悪と理性の誤り、中世思想研
究、査読有、第 58 号、2016、pp.31-46
http://jsmp.jpn.org/jsmp_wp/wp-content/uploads/smt/vol58/031-046_matsune.pdf
松根伸治、トマス・アキナス『悪について』第 9 問・虚栄(翻訳)、アカデミア 人文・自
然科学編、査読無、第 12 号、2016、pp.261-277
[doi/10.15119/00000858](https://doi.org/10.15119/00000858)
伊藤邦武、数理思想からみた田辺元の西田哲学批判、哲学研究、査読有、第 600 号、2016、
pp.1-17
伊藤邦武、宇宙論における美的調査の導出、現代思想、査読無、第 45(5)号、2017、pp.210-213
伊藤邦武、九鬼周造とプートルーの偶然論、理想、査読有、第 698 号、2016、pp.104-115

[学会発表](計 60 件)

吉沢一也、ソクラテスとプラトンによる「通俗的」正義への関与について、第 3 回正義論ワ
ークショップ、2018 年 12 月 19 日、名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
辻内宣博、諸徳の基底となる正義の位相 トマス・アキナスとジャン・ビュリダン、
第 3 回正義論ワークショップ、2018 年 12 月 19 日、名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
辻内宣博、神の自由意志の絶対性 オッカムのウィリアムにおける原罪論から、第 67 回中
世哲学会 2018 年 11 月 11 日、聖心女子大学(東京都渋谷区)
周藤多紀、トマス・アキナスによる徳の分類—枢要徳を軸にして—、京都哲学会、2018 年
11 月 3 日、京都大学(京都府京都市)
山口雅広、トマス・アキナスの原罪論 彼のキリスト教的人間観の一面、中世哲学
会第 67 回大会シンポジウム提題、2018 年 11 月 11 日、聖心女子大学(東京都渋谷区)
松根伸治、ガンのヘンリクスと意志の弱さ：Quodlibet I, q.17、京大中世哲学研究会、2018
年 7 月 28 日、京都大学(京都府京都市)
藤本温、ius と iustitia 十三世紀の神学者と法学者による理解から、第 3 回正義論研究会、
2018 年 9 月 16 日、名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
吉沢一也、ソクラテスの正義とプラトンの正義、第 3 回正義論研究会、2018 年 9 月 16 日、
名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
松根伸治、フォンテーヌのゴドフロワの正義論、第 3 回正義論研究会、2018 年 9 月 16 日、
名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
山口雅広、トマス・アキナスによる原罪と原義、第 3 回正義論研究会、2018 年 9 月 16 日、
名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
周藤多紀、ディンスデールのヨハネスによる徳の区分論、第 3 回正義論研究会、2018 年 9
月 16 日、名古屋工業大学(愛知県名古屋市)
辻内宣博、ビュリダンにおける法的正義、第 3 回正義論研究会、2018 年 9 月 16 日、名古屋
工業大学(愛知県名古屋市)
大野岳史、スピノザにおける正義と敬虔、第 3 回正義論研究会、2018 年 9 月 16 日、名古屋
工業大学(愛知県名古屋市)
矢内義顕、アンセルムスの(正)義論、第 3 回正義論研究会、2018 年 9 月 16 日、名古屋工
業大学(愛知県名古屋市)
辻内宣博、オッカムのウィリアムにおける原罪論、第 77 回日本宗教学会、2018 年 9 月 9 日、
大谷大学(京都府京都市)
矢内義顕、アンセルムスにおける「原罪」と「父祖たちの罪」、第 77 回日本宗教学会、2018 年
9 月 9 日、大谷大学(京都府京都市)

平野和歌子（研究協力者）、アウグスティヌスの三位一体論におけるペルソナの重要性、第77回日本宗教学会、2018年9月9日、大谷大学（京都府京都市）

大野岳史、スピノザにおける人間精神の永遠性と持続、第77回日本宗教学会、2018年9月8日、大谷大学（京都府京都市）

ITO, Kunitake, Toward a rehabilitation of the theory of collective consciousness, the 24th World Congress of Philosophy, 2018年8月15日、北京大学（中国）

松根伸治、ガンのヘンリクスと意志の弱さ：Quodlibet I, q.17、京大中世哲学研究会、2018年7月28日、京都大学（京都府京都市）

②小川量子、スコトゥスにおける法と自由、第2回正義論ワークショップ、2018年3月6日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②Wakako HIRANO（研究協力者）、"Nature, Will and Action according to Augustine", 11th Annual Conference of Asia-Pacific Early Christian Studies Society, 2017年9月24日、メルボルン（オーストラリア）

②矢内義顕、神の正義の復讐、第2回正義論研究会、2017年9月13日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②辻内宣博、ピュリダンにおける配分的正義と交換的正義の見方、第2回正義論研究会、2017年9月13日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②周藤多紀、ディンスデールのヨハネスの『倫理学問題集』第五巻（ms.Oriel 33）、第2回正義論研究会、2017年9月13日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②松根伸治、ガンのヘンリクスの徳理論 正義の位置づけ、第2回正義論研究会、2017年9月13日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②藤本温、正義と自然法、第2回正義論研究会、2017年9月12日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②小川量子、スコトゥスにおける正義の関係性、第2回正義論研究会、2017年9月12日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

②大野岳史、スピノザにおける正義と民主制、第2回正義論研究会、2017年9月12日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

③山口雅広、トマス・アキナスの正義論 『神学大全』を中心に、第1回正義論ワークショップ、2017年3月9日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

③山口雅広、中世の二人の思想家とリパブカニズム、関西倫理学会 2016年度大会シンポジウム、2016年11月6日、慶応大学（東京都港区）

③矢内義顕、アベラルドゥスの原罪論、第75回日本宗教学会、2016年9月10日、早稲田大学（東京都新宿区）

③大野岳史、スピノザ『神学政治論』における正義について、第75回日本宗教学会、2016年9月10日、早稲田大学（東京都新宿区）

③藤本温、アキナスとアンスコム正義論、第1回正義論研究会、2016年9月2日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

③吉沢一也、プラトンの正義論、第1回正義論研究会、2016年9月2日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

③周藤多紀、13世紀学芸学部の正義論、第1回正義論研究会、2016年9月2日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

③小川量子、スコトゥスの正義論、第1回正義論研究会、2016年9月2日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

③辻内宣博、ブリダヌスの正義論、第1回正義論研究会、2016年9月2日、名古屋工業大学（愛知県名古屋市）

〔図書〕（計4件）

松尾秀樹、Stephen, E. Bodnar Alexander, A.、藤本温、三修社、Reading Quest、2019、120

伊藤邦武、藤本忠、田中龍山、山口雅広他、晃洋書房、哲学ワールドの旅、2018、210

伊藤邦武、晃洋書房、フランス認識論における非決定論の研究、2018、293

矢内義顕訳、教文館、G・プラスガー著、カルヴァン神学入門、2017、217

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：山口 雅広

ローマ字氏名：YAMAGUCHI, Masahiro

所属研究機関名：龍谷大学

部局名：文学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：20646377

研究分担者氏名：松根 伸治
ローマ字氏名：MATSUNE, Shinji
所属研究機関名：南山大学
部局名：人文学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：90432781

研究分担者氏名：周藤 多紀
ローマ字氏名：SUTO, Taki
所属研究機関名：京都大学
部局名：文学研究科
職名：准教授
研究者番号(8桁)：50571733

研究分担者氏名：辻内 宣博
ローマ字氏名：TSUJIUCHI, Nobuhiro
所属研究機関名：早稲田大学
部局名：商学学院
職名：准教授
研究者番号(8桁)：50645893

研究分担者氏名：矢内 義顕
ローマ字氏名：YAUCHI, Yoshiaki
所属研究機関名：早稲田大学
部局名：商学学院
職名：教授
研究者番号(8桁)：90200469

研究分担者氏名：伊藤 邦武
ローマ字氏名：ITO, Kunitake
所属研究機関名：龍谷大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：90144302

研究分担者氏名：吉沢 一也
ローマ字氏名：YOSHIZAWA, Kazuya
所属研究機関名：大阪体育大学
部局名：体育学部
職名：講師
研究者番号(8桁)：60711710

研究分担者氏名：小川 量子
ローマ字氏名：RYOKO, Ogawa
所属研究機関名：立正大学
部局名：人文科学研究科
職名：研究員
研究者番号(8桁)：60648442

研究分担者氏名：大野 岳史
ローマ字氏名：OHNO, Takeshi
所属研究機関名：東洋大学
部局名：東洋学研究所
職名：客員研究員
研究者番号(8桁)：70639822

(2)研究協力者

研究協力者氏名：平野 和歌子
ローマ字氏名：HIRANO, Wakako

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。